

事業の概要

<p>目的（動機）</p>	<p>赤そばを地域で栽培することで9月初旬からの赤い花の時期に写真家をはじめ多くの観光客が訪れるようになって来ました。現在11戸の農家が「赤そばの里 八幡高原」を組織して4ヘクタールの休耕田に赤そばを栽培しています。今後も規模拡大を目指し「八幡高原を真っ赤に染めよう！」を合い言葉に頑張ることで集客に繋がり、「かりお茶屋」「野菜販売所」の経営が安定し地域の雇用の確保や野菜の出荷場所を維持でき、元気な地域を目指しています。</p> <p>さらに当初から赤そばで地域の特産品を作ることも目的としていました。昨年アンデルセン100年農場でリンゴの蜂蜜を採取されて実績がある養蜂家の平井さんから赤そばで蜂蜜を採取しませんかと相談があり、赤そばで挑戦することとしました。</p> <p>昨年、8月下旬から巣箱を置き蜂蜜の採取を試みましたが蜂の活動時期が7月末頃で終わる習性があり蜂蜜の採取には至りませんでした。</p> <p>そこで今年は春そばの栽培に挑戦して6月7月に花を咲かせ、蜂の活発な活動時期に「赤そば蜂蜜」を採取することを計画しました。</p>
<p>事業内容</p>	<p>赤そばの種蒔きを5月下旬頃に実施し6月下旬から花を咲かせ7月末頃まで蜂の巣箱を置き蜂蜜採取を行っていく。「赤そば蜂蜜」として販売できるには周辺に白蕎麦や他の花があると百花蜜となるのでこれまで八幡高原で白蕎麦栽培をされていた農家に無償で赤そばの種を配布してきた地道な努力で「赤そば蜂蜜」を誕生させることが出来、日本でも長野県で1カ所日本ミツバチで採取されているだけで非常に珍しい希少価値の高い特産品を生みだしていく。</p>
<p>成果見込</p>	<p>春蒔きの赤そばの花が6月7月に咲けばカキツバタの花が終わり観光客が減る時期に集客に繋がる効果もあり四季を通じて八幡高原を訪れるようになり八幡高原の活性化に繋がる。</p> <p>また、希少価値の高い「赤そば蜂蜜」を地域の特産品に育て地域で販売するとともに、ふるさと納税の返礼品などに育てていきたい。</p>

<p>成果指標</p>	<p>成果としては、春蒔きの赤そばの花が咲き誇り観光客が増えることと希少価値の高い「赤そば蜂蜜」が採取でき地域の特産品になり返礼品などに育ったとき目的が達成できた指標となる。</p>
<p>スケジュール</p>	<p>3月から新たな赤そば圃場の整備。 5月下旬から赤そばの播種作業を開始する。 6月中旬に蜂の巣箱を設置し蜜の採取を開始し蜂の活動が終わる7月下旬頃まで採取を継続する。 6月下旬から蜂蜜の瓶やラベルのデザインなどの準備に取りかかる。 7月下旬に蜂蜜の瓶やパッケージを完成させる。 7月下旬秋収穫そばの播種開始</p>
<p>ふるさと寄附での目標金額到達のためのプロモーション内容</p>	<p>春蒔きの赤そばの花のPRは各種メディアや高原の自然館などで周知を図っていき入り込み客の増を図るとともに「赤そば蜂蜜」のPRは今回の企画に協力いただくヒライ企画の蜂蜜販売ノウハウを活かして広く周知していく「赤そば蜂蜜」を北広島町のふるさと産品に育て返礼品に登録するなどして広く周知することなどの機会を通じて、ふるさと寄附制度協力を呼びかけていくことで目標金額達成を図りたい。</p>